

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2017 年 7-9 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲14 となり、前期と同水準となり、足踏み状態で推移している。経営上の問題点を見ると、調査開始以来、初めて「従業員の不足」が 1 位となった。深刻な人手不足となっている。

2017 年 7-9 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 21%、「好転」とした企業は 7%で前回調査と同水準となった。景況判断 DI は▲14 となり、前回調査と同水準となった。

以下、その他業況感 DI の内訳

2017 年 4-6 月期に対して、

- ・売上高 DI は 0 で、6 ポイント改善
- ・処理量 DI は▲3 で、同水準
- ・契約単価 DI は▲1 で、3 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲9 で、4 ポイント改善
- ・資金繰り DI は▲2 で、1 ポイント悪化
- ・借入難易度 DI は 3 で、4 ポイント悪化
- ・設備投資 DI は▲2 で、4 ポイント悪化
- ・従業員数 DI は▲5 で、10 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲15 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 6.0%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 6.7%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.56%で前回調査（5.61%）より悪化した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」19.9%（前回 17.8%）、「需要の停滞」18.7%（前回 20.2%）、「同業者相互の価格競争の激化」16.5%（前回 17.0%）と引き続き上位となった。「従業員の不足」が前回の 2 位から 1 位に上昇している。調査開始以来、初めて「従業員の不足」が 1 位となった。

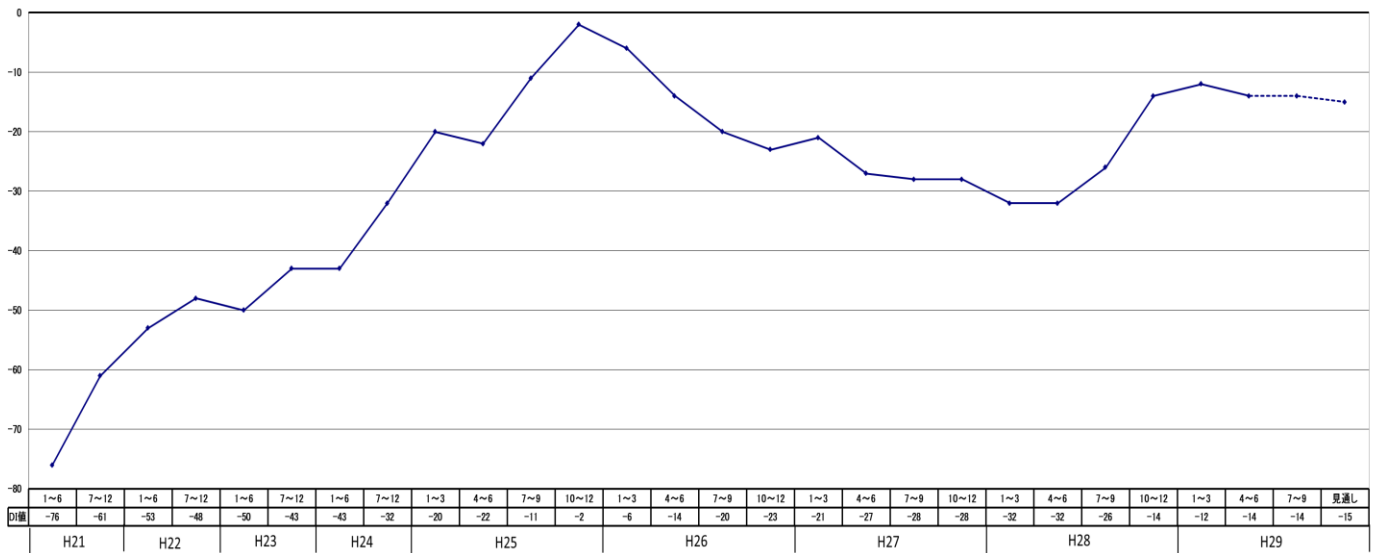
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

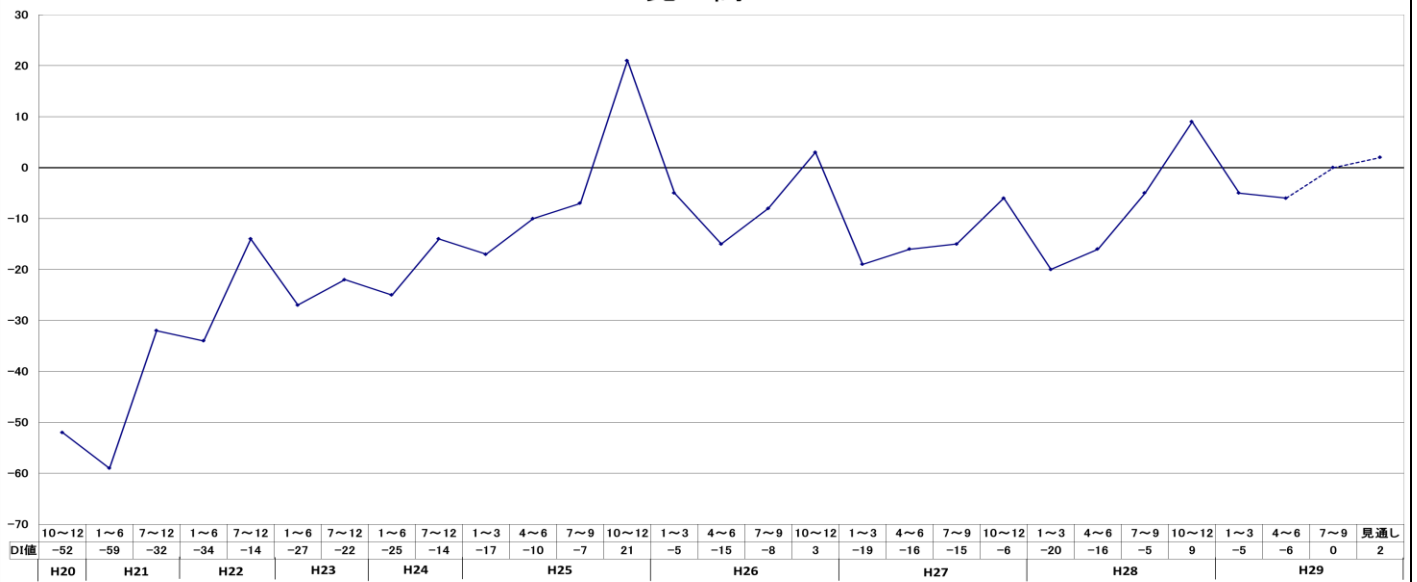
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 29 年 10 月 11 日～11 月 24 日
- 回答企業数：372 社

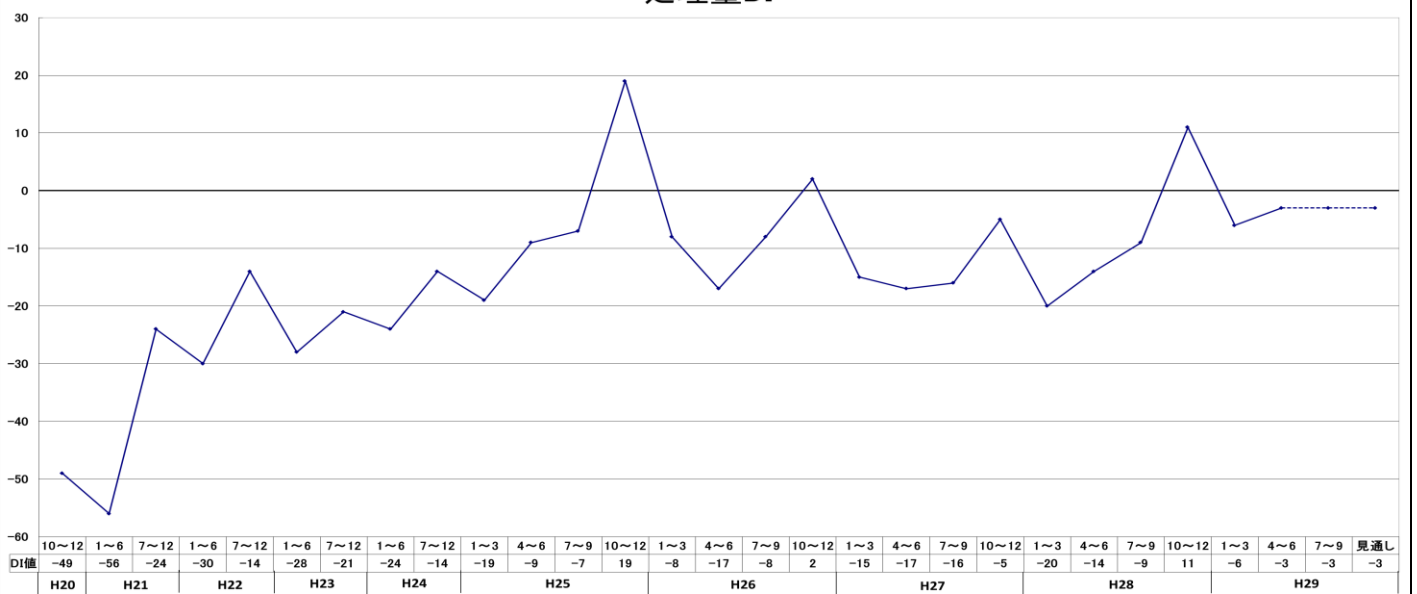
景況判断DI



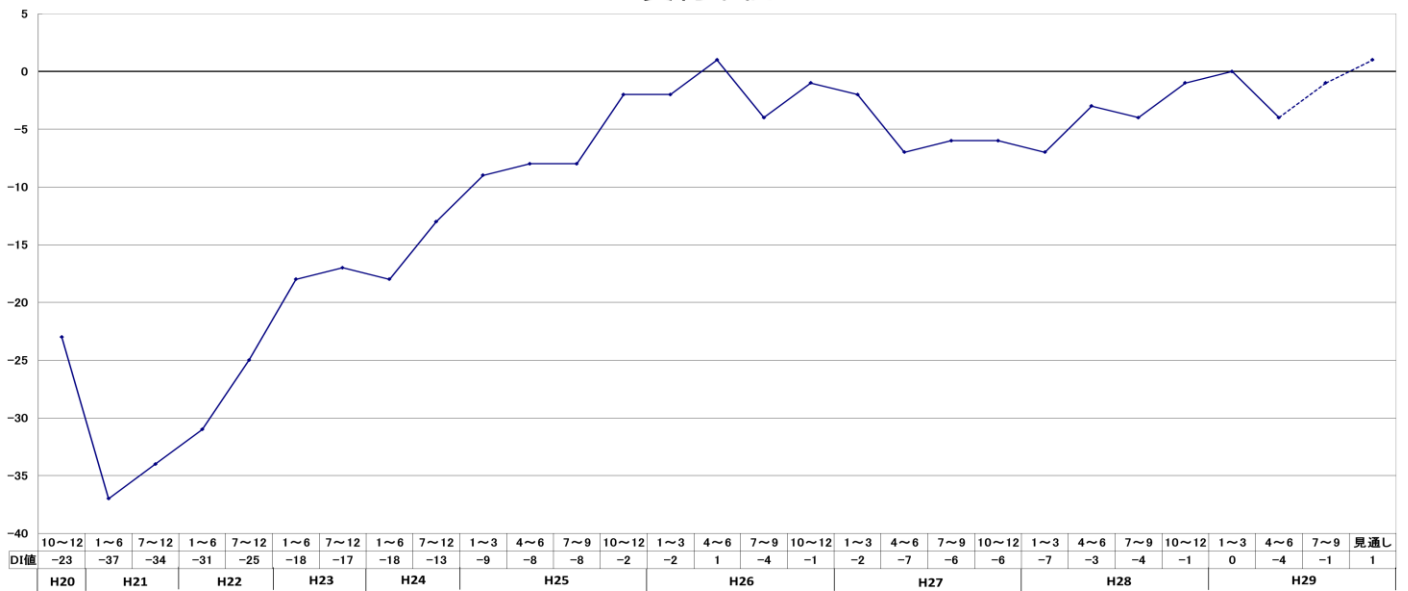
売上高DI



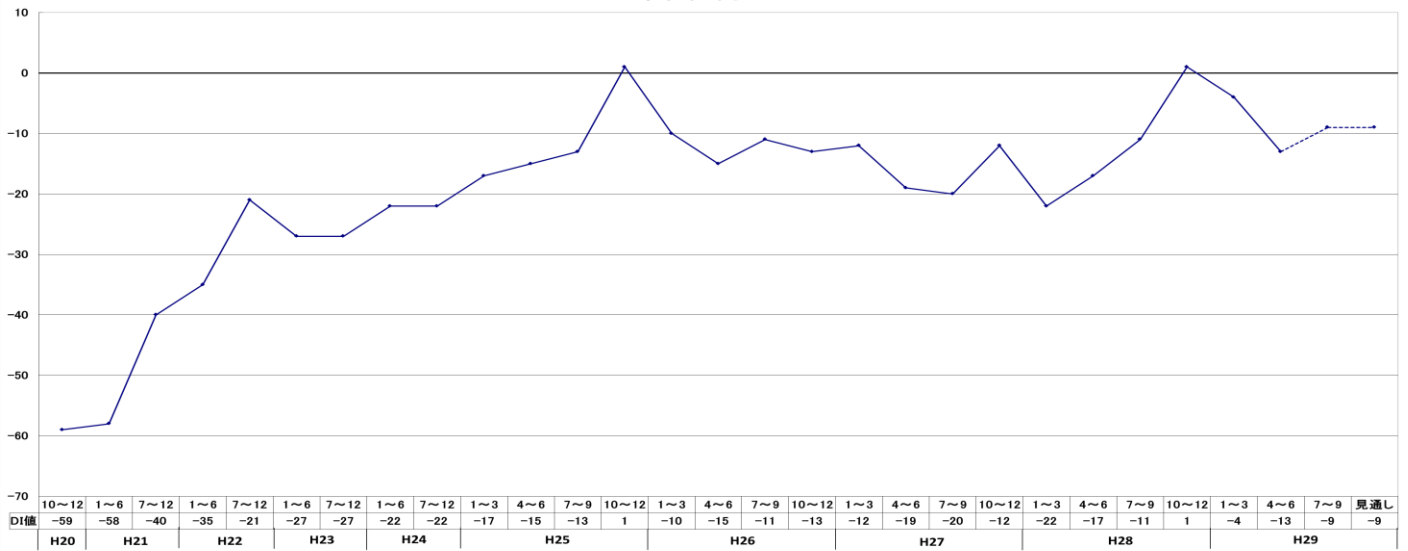
処理量DI



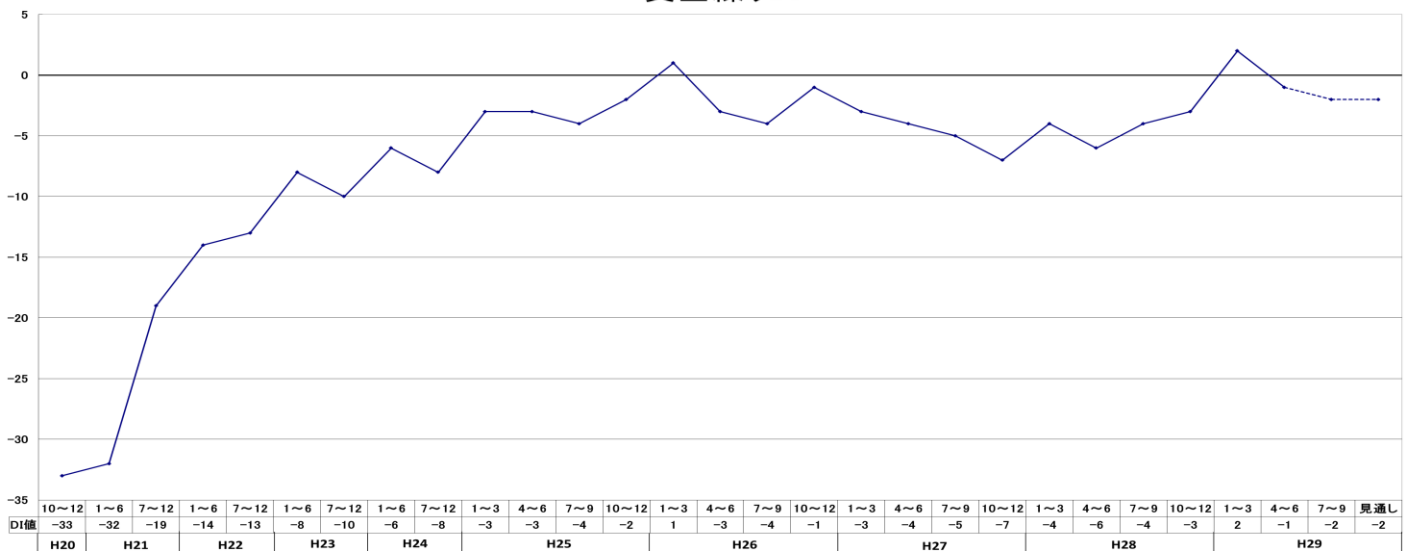
契約単価DI



営業利益DI

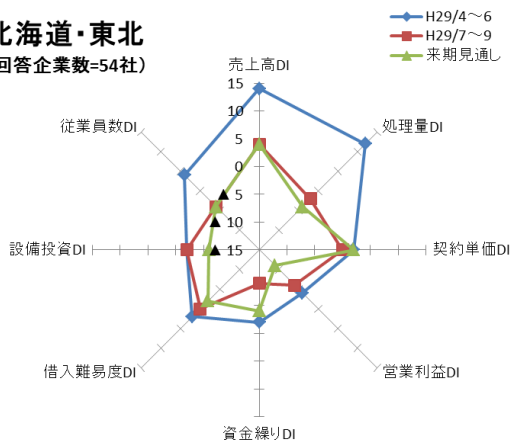


資金繰りDI

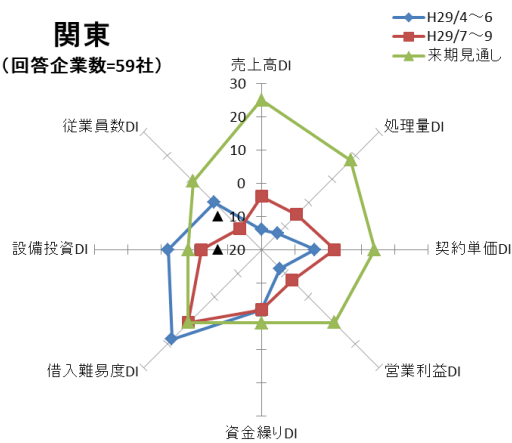


【地域別レーダーチャート】

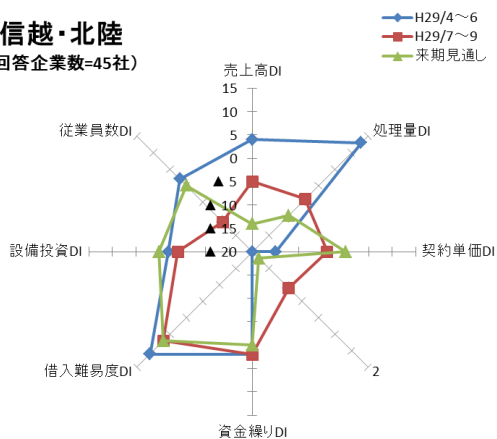
北海道・東北 (回答企業数=54社)



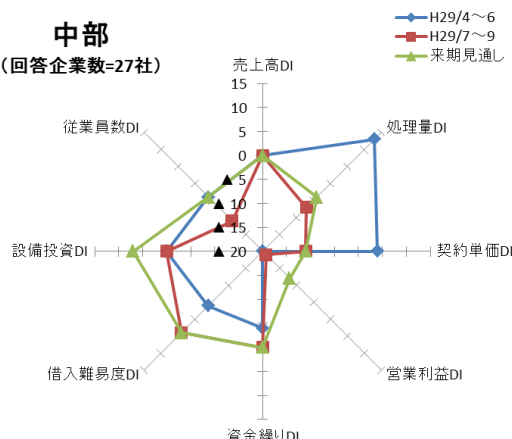
関東 (回答企業数=59社)



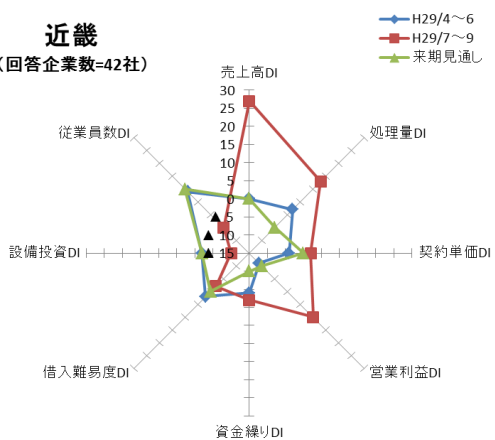
信越・北陸 (回答企業数=45社)



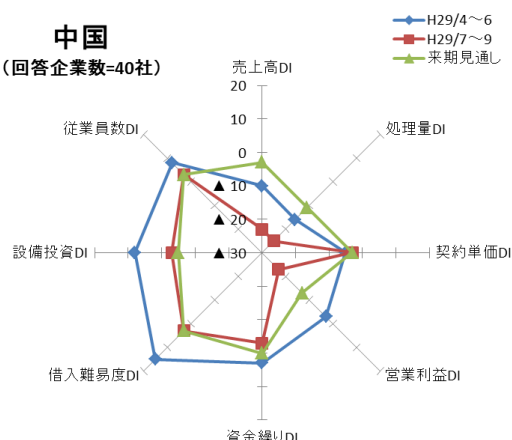
中部 (回答企業数=27社)



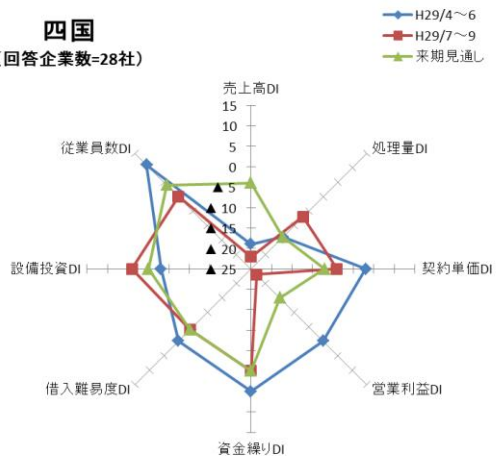
近畿 (回答企業数=42社)



中国 (回答企業数=40社)



四国 (回答企業数=28社)



九州・沖縄 (回答企業数=43社)

